

園庭の柿の木に、たくさんの柿の実がなりました。
『あれ なに？』『カラスが食べてるー！』
『カキって言って、秋の果物だよ。しわしわの干し柿にしてみようか！』
『ウン！』
早速収穫し、保育室に持ち帰りました。



枝や葉を取り、皮をむきます。
『もう食べられる？』
『まだまだ。しわしわになってからよ』
『これ甘い？』
『しぶーいよ』
『ふ〜ん？』

カラスがかじった実が出てきました。
『カラスさんが食べたみたいよ』
『えー！』
『さっきカラスさんおったなあ！』
『カーカー言ってた』
『オイシイ言ってたんかなあ？』
さっき園庭で見たカラスと重なり、
想像がふくらみます。



窓辺に吊るしておくことにしました。
さて、どうなるかな？

数日後、だんだん小さくしぼみ、
しわしわになってきました。
『あれ？小っちゃくなってる』
『しわしわ〜！』『なんで？？』

子ども達も、変化に気付いたようです。



最初と全然違う柿の姿に、みんなびっくり！
『これ食べれるん？』
『なんかにおいする…』
『しわしわなったー！』

一人一人手に取り、感触やにおいを感じていました。

衛生上、この干し柿は食べられませんが、
作る場所を見たり、日々変わっていく柿の様子を見たり
して、自然の不思議を感じていました。

